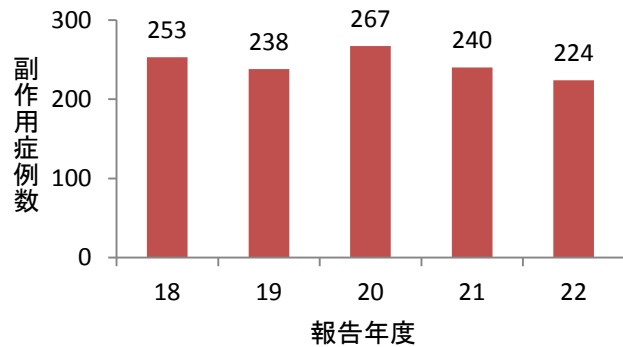


## 一般用医薬品による副作用

- 医薬品は、病気を治す等の効能・効果を有する一方、**健康を害する様々な副作用が生じる**。
- 副作用は一般用医薬品でも発生しうるものであり、一般用医薬品によるものと疑われる副作用が**毎年250症例前後報告**されている。
- 場合によっては、**アナフィラキシーショック(血圧低下や呼吸困難等のショック症状)、肝機能障害等の重篤な副作用が生じ、更には死亡に至る可能性もある**。

### 1. 一般用医薬品による副作用報告(副作用症例数)の年次推移



### 3. 死亡症例の状況(平成18年度から22年度)

薬効分類	症例数	副作用症状
総合感冒剤(かぜ薬)	11	中毒性表皮壊死融解症、肝不全、間質性肺疾患、汎血球減少症等
解熱鎮痛消炎剤	2	代謝性アシドーシス、ライ症候群等
制酸剤	1	心不全
漢方製剤	1	間質性肺疾患
混合ビタミン剤 <sup>注1</sup>	1	劇症肝炎
催眠鎮静剤、抗不安剤	1	死亡
合計	17	

- 注) 1. ビタミンA・ビタミンD混合製剤を除く。  
 2. 死亡症例の報告については、製造販売業者から報告されたものであり、医薬品による副作用と死亡との因果関係が不明のものを含んでいる。  
 3. データは、平成23年12月時点での集計値

### 2. 薬効群別副作用症例数の状況(平成18年度から22年度)

薬効分類	副作用症例数	主な副作用
総合感冒剤(かぜ薬)	433	ステーブンス・ジョンソン症候群、急性腎不全、肝不全等
解熱鎮痛消炎剤	254	ステーブンス・ジョンソン症候群、間質性肺疾患、肝障害等
漢方製剤	113	間質性肺疾患、肝機能異常、中毒性表皮壊死融解症等
禁煙補助剤	58	自殺念慮、狭心症、ショック等
耳鼻科用剤	47	アナフィラキシー反応、脳出血、横紋筋融解症等
鎮咳去たん剤	26	アナフィラキシーショック、ステーブンス・ジョンソン症候群、黄疸等
鎮痛、鎮痒、収れん、消炎剤	25	喘息、急性汎発性発疹性膿疱症、接触性皮膚炎等
下剤、浣腸剤	23	直腸穿孔、アナフィラキシーショック、偽アルドステロン症等
複合胃腸剤	18	血小板減少症、劇症肝炎、慢性腎不全等
その他	225	
合計	1222	

- 注) 1. 副作用報告については、医薬品との因果関係が不明なものを含め製造販売業者から報告されたものであり、個別に医薬品との関連性を評価したものではない。  
 2. データは、平成23年12月時点での集計値。  
 3. アナフィラキシーショック:血圧低下、呼吸困難等のショック症状。  
 4. スてーブンス・ジョンソン症候群:発熱、発疹、粘膜のただれ、眼球の充血等の症状を特徴とし、予後が悪い場合、失明や致命的になることもある。  
 5. アナフィラキシーショックやステーブンス・ジョンソン症候群は、広範な一般用医薬品により起こりうるものとされている。